

令和5年度 第3回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和6年3月22日（金） 10時～11時50分

■ 開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■ 会議出席者（敬称略）

会 長 植田 育男

副会長 藤吉 敬子

委 員 小倉 俊宏、昆 政明（欠席委員：今野 博、新井志生実）

事務局 浜野館長、坂田館長代理（管理担当長）、川端館長代理（学芸担当長）

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 浜野館長挨拶

2 議 事

（1） 報告事項等について

- ・ 令和5年度秋期特別展について
- ・ 第23回博物館文化祭について
- ・ ホームページとYouTube・SNSについて

（2） 令和6年度予定について

- ・ 令和6年度当初予算について
- ・ 令和6年度事業計画について

（3） その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

■ 議事及び質疑

議題（1）報告事項等について

◆令和5年度秋期特別展の開催報告について事務局から説明資料により説明。

委 員 知識がある人には面白い展示だと思うが、子どもたちなどには理解しにくい内容なので、アンケート結果に「難しい」と評価する人がいるのではないかと推測したのも含まれていると思われるので、「難しい」と回答したアンケート結果は割り引いて考えてもよいのではないかと。

委 員 子どものころ、プラネタリウムを何度も観覧したが、展示してある投影機を見て懐かしく思い、興味深く楽しい内容だった。博物館が改変を迫られる中、投影機を見て当時の苦労が偲ばれ、どのようにデジタル化などの進化を遂げたのか、プラネタリウムの歴史を通じて館の変遷、流れがわかった。今後残していくべきもの、どういう新しいものを取り入れていくのかを考える

きっかけになり、コンセプトを感じた。確かに子ども向けではなく、コアなファン向けの内容だったが、子どもたちはプラネタリウムを観覧して楽しんでいた。

事務局 今回の展示はメカニックを説明する箇所が多かったため、難解な印象になったようだ。古い投影機の仕組みはアナログな部分があり、担当学芸員が素材を手作りして投影するなど見ていて楽しい展示だと思うが、小学生には難しかったかもしれない。

委 員 全国一斉プラネタリウム 100 周年記念イベント周知はどのように行ったのか？

事務局 この事業は日本プラネタリウム協議会が主催で、趣旨に賛同する館が参加した。どの館もドイツとライブ中継は行っていたが、それ以外のイベントは各館が独自で実施した。日本プラネタリウム協議会がインターネット、SNS等で周知するとともに、参加した館や天文台にポスターを掲示した。平塚市博物館は事前申し込み制とし、「あなたと博物館」、インターネット及びSNSで募集した。全国一斉プラネタリウム 100 周年記念イベントは会場の雰囲気がとてもよく、当日のNHK取材の中で「楽しかった」とインタビューで答えた小学生の参加者がその後、プラネタリウムを観覧してくれた。

◆第 2 3 回博物館文化祭について事務局から説明資料により説明。

委 員 質問掲示板への回答はワーキンググループ会員か学芸員か。

事務局 まずワーキンググループに回答案を作ってもらい、学芸員が内容を確認後、公開している。

委 員 質問掲示板に掲載されている「葬儀に関する展示が多かったように感じるのですが、結婚や出産、長寿の祝い等の慶事の際の風習やしきたりは調べるのが難しかったりするのか」に対しどのように回答したのか？

事務局 会員さんが葬儀に強い興味を持っていることが反映されたもの。

委 員 現在、ワーキンググループ 15 G、会員約 300 人。それぞれの増減はあるのか。

事務局 例年文化祭開催時期に会員を募集している。令和 5 年度は 3 月 15 日に募集を締め切った結果、多いグループは 4～5 人、少ないグループでも 2～3 人の新規会員が入会した。体調が優れなかったり、外に出かけることがつらくなり、活動できなくなる会員も一定数いるが、毎年度、入会者数が上回っており増加傾向にある。

◆ホームページ・YouTube・SNS について事務局から説明資料により説明。

委 員 「ひらはく展示+」について教えてほしい。

事務局 館内の各展示場所に QR コード表示があり、個人所有のスマホ、タブレットで読み取ると、音声解説に加え、動画や写真を見ることが出来るデジタル展示ガイドのこと。

委 員 ユーザーと新規ユーザーの差がリピーターでよいのか。新規を増やしていくことも大事だが、リピーターを増やしていくことがより重要になると思う。イベント数（アクセス回数）が 6,000 回に設定されているが、その根拠は？また、今年度は達成される見込みはあるのか？

- 事務局 県立歴史博物館が令和２年度からデジタル展示ガイドを運用している。年間運用実績が約１万アクセス。本市では運用が令和５年７月から開始されたが、約６割の稼働期間になるため、６、０００回とした。７月・８月データの一部が欠損したこともあり、目標達成は難しい状況である。
- 委員 YouTubeの再生回数が非常に多い。他館では１,０００回に達する番組は少ないが、平塚市博物館のランキング上位は軒並み１,０００回を超えてびっくりしている。
- 事務局 YouTubeを開設したのは平成２３年度で、当時の公開本数は年間数本だった。令和３年度に「５分でわかる平塚学入門」をシリーズ化してから、視聴数やチャンネル登録数が飛躍的に伸びた。中には公開開始から時間が経過して人気が出るプログラムがある。ランキング１位の「どこい神輿と甚句」は半年経って視聴数がウナギ上りになり、不思議な視聴数の経過をたどっている。その他、元日に能登半島地震が起こった関係で、地質関連動画の視聴数が飛躍的に伸びている。社会状況・情勢も関係しているかもしれない。
- 委員 横浜開港資料館でもYouTubeチャンネルで情報提供している。どの番組も数百アクセス程度だったが、今年度（令和５年度）、今までなかった西洋の明治から大正にかけての写真帳が発見されたことを紹介する番組が既に９万アクセスあり、近日中に１０万に達する見込み。目玉になる番組の効果により、他番組も視聴数が急激に増加している。他の博物館でも１０万アクセスはめったにあることではない。誰もが興味を引くテーマを考えて話題になると他番組の底上げにつながる。バズるような「いいテーマ」を探してほしい。
- 館長 新しい魅力的なコンテンツが全体の底上げに繋がることは実感としても受け止めている。当館でも「鎌倉殿と平塚の７人」がブレイクすることで、既に公開していた「５分でわかる平塚学入門」の各コンテンツの視聴回数も増えたことがあり、意識して取り組んでいくことが大事だと改めて感じたところ。
- 委員 時代の要請やマスコミの流れなど全体を見ながら一つの筋脈を発見できればよい。話は変わるが、博物館年報に利用状況として入館者数が記載されている。博物館利用については入館者数で判断する傾向にあるが、博物館活動は展示以外にも様々な事業や活動を行うことで多くの人と関わっている。現在、ネットの配信、YouTubeなどのツールにより博物館活動への興味や関心を深めている人もおり、自主事業、講演会をはじめ、外部との共催、出前授業なども行っていることから、これらの項目を設けて博物館利用（活動）実績として記載すると、博物館活動が多様化している現状に即した統計になると思う。以前勤務していた博物館でも入館者以外を含めたら３倍以上になったことがあり、周りからも評価されたので是非検討していただきたい。
- 館長 コロナ禍には来館者数が減った分、ウェブ等の取組への反響が大きく、内部でもその数字を入れ込んだらどうかとの意見も出た。今回貴重なご意見をいただいたので、従来の統計データは踏襲しながら、新しいウェブ上の利用者数や学校に出向いた授業、また講師として呼ばれるこ

とが非常に多くあるので、統計データとしたい。博物館が地域や学校に貢献できている実績として示していくことにもなるので意識していきたい。

委員 以前、ある大学から勤務していた博物館に「暮らしと文化」というテーマで講座依頼があった。県施設職員なので業務命令として出前授業をしており、対象人数、講座回数などが実績数字になる。当初は上司から本来業務を放っているという意見もあったが、しっかり実績になるので問題はないと思う。市町村や町内会にも派遣していたが、きっちり受講者等の記録は残した。博物館で培った研究成果や特別展の内容を県民、市民に還元することなので、数字として記録することは重要だと思う。ただし、統計資料の連続性は必要なので、統計の取り方を変えるのではなく、新たに加えることが良いのでは。

館長 入館者以外に講師派遣なども統計に入れている博物館があれば教えてほしい。

委員 具体的には不明だが、全体的にそのような傾向に変化しつつある。

館長 注視して参考にしたい。

委員 「神奈川県立 生命の星・地球博物館」などが該当するのでは。

委員 これは一つの博物館だけでなく、博物館全体に関わる話だ。利用者等を公開すると、必ず博物館は利用者数が少ないと言われる。新博物館法では地域に貢献する（活力の向上に寄与するよう努める）役割が期待されている。これは博物館内にとどまらず、館外に出て地域と関わりを持ちながら活動していくという新法の精神に沿ったもので、出前授業などを増やしていくことは、こうした変化に適応するよい機会である。平塚市だけの話ではなく、上部機関の博物館協会が統一基準を作ってもよい話であり、その部分を拾っていくと平塚市は膨大な利用者数になる。

県立博物館に勤務していた時、できて間もない平塚市博物館を視察した。博物館とプラネタリウムの親和性が成り立つのか、維持していけるのか疑問に思ったが、十分に生かされており市民に定着している。プラネタリウムを併設した博物館でも物置になってしまっている館も結構ある中、平塚市は資源を十分に生かして活動している。

議題（２）令和６年度予定について

◆令和６年度当初予算について事務局坂田担当長が説明資料により説明。

委員 博物館予算全体で前年度から減額になっているが

事務局 啓発を行う教育普及活動、特別展事業などは前年度と同程度。建物を維持・管理するために、修繕や保守点検を行う管理事業について減額になった。毎年度は計上しない、特定の年度のみ工事を実施するための予算額が令和６年度は５年度に比べて少なかったため。

委員 建物の維持・管理経費が減らされて大丈夫か

事務局 各年度予算要求前に修繕等の必要（優先）箇所を洗い出しているので問題はない。

◆令和6年度事業計画について事務局川端担当長が説明資料により説明。

委 員 夏休み期間の自由参加の事業を増やしたい意向のようだが、具体的なプランはあるのか

事務局 申込制行事の中に、体験学習「昔の方法で火を起こそう」がある。需要が高いため自由参加にして参加者を増やしたいが、現状手伝いのワーキンググループ会員が暑い中で火を起こすことがつらいなどの意見が出ている。もう少し体の負担が少ない時期に変更することを考えている。また、「化石ペーパークラフトをつくろう」については、1種類だけでなく、数種類できるよう試作しているところで、目途が立てば複数回開催したい。

委 員 市の古い施設について、図書館は改修、青少年会館は取り壊しになると聞いている。博物館も老朽化が進んでおり、この冬、講堂で講座を受講した際、エアコンを入れていたが、室内は暖まらずにずっと寒いままだった。放置できない状況にあると思うのでこの先の予定が決まっていれば教えてほしい。

事務局 博物館改修については図書館改修後になるが、図書館の予定が正式に決まっていないのでその後の完成を目指すようになる。庁内で他施設の状況を踏まえながら時期、方法等について話し合いを進めているところ。博物館内は建物が非常に古いため寒さが激しく、暖房を入れても暖かくなならないことは十分認識している。貴重なご意見をいただき感謝している。

委 員 新しい博物館が絶対に必要だという市民からの強い要望などによらないと、改修を後押しできないのでは。関係者だけでなく市民を巻き込まないと進捗していかないと思う。具体的に何をやるべきか解らないが、早く動かないと立ち消えになる可能性もある。

委 員 もともと平塚市博物館は、市民などと望ましい博物館像について話し合いを重ね、理想的な博物館を作り上げたという、全国の博物館関係者の認識があった。ちなみに青森県立郷土資料館は現在、耐震工事のために休館中だが、資料を他の場所に移している。建替え、改修に関わらず、期間中は収蔵物をどこかに移すことになり、このことはハードルになる。元の場所に戻すのか又は新しい場所に移動するのかなかなか決まらない。平塚市博物館資料は博物館内に収まっているか？

事務局 外部にも倉庫を借りている。

委 員 博物館内だけに資料を収蔵できる場所はほとんどない。

事務局 市内部の方針では、教育会館、青少年会館、勤労会館の集会機能を教育会館に統合し、長寿命化を図る目的で令和6年度から改修を行うことになっている。博物館改修については勤労会館、青少年会館を含め公共施設を置き場所として活用できないか、庁内で検討しているところ。活用可能な施設に資料が収まらない場合は外部も検討しなければならない。

館 長 先ほど委員から、博物館改修（建替え）について、強く市民に働きかける必要があるのではとのご意見をいただいた。現在、「公共施設等個別施設計画」の中で公共施設については、耐震化、基本機能の回復などの改修工事により、目標耐用年数を76年間に設定して長寿命化を図っている。博物館は建設から48年が経過しているので、残り30年弱は現存の建物でやっ

ていかなければならない。一般市民は老朽化が進む現状のままでも活動ができるだろうと考えている人が多いと思うが、放置できる状況ではなく、来館者の安全を確保する観点からも早急に改修する必要がある。改修であれば、現状の課題である利用しやすさ、展示を魅力的なものにするなど、現在の館の課題を解消することを第一に考えていくことになるので、直接市民の意見を聞く場があればよいと思う。博物館のあり方について、市民と直接意見交換できる場を設ける場があれば、博物館改修について力添えしてくれる人を増やしていくきっかけになるのではないかと考えている。

委員 行政の立場からは改修の方がハードルは低い。利用者からも今ある博物館をベースにして「こういう機能が欲しい」「ここが不便」など様々な意見を出しやすくプラスになることが多い。建替えの場合は一からの積み上げになってしまい、途中で空中分解する危険もある。この事業を推進する上で改修がより現実的な選択で、他市でも博物館リニューアルについては改修が主流派である。ただし、収蔵庫についてはスペースをとるため、一つの建物（館内）だけに収めることは困難なことが多い。別の方法で解決方法を考えなければならない。

館長 大きな課題として収蔵スペースの確保がある。博物館の収蔵スペースは約 400 m²、外部倉庫が 300 m²。館内収蔵庫は収蔵物であふれかえっている。通路確保や書類等を整理すべき状況。改修時にスペースをぜひ拡張したいと考えている。

委員 他館の例だが、収蔵物を全部外に出した現場に県議会関係者が居合わせたことがあった。狭いスペースに膨大な量の収蔵物が無理やり詰め込まれていることがよくわかり、元の場所に戻すことは困難でもっと広い収蔵庫を新たに作る必要があると認識してもらえた。説明するだけでなく現況を目の当たりにすると理解を得やすくなる。また収蔵物が増えると管理台帳と合わなくなっているので、整理するよい機会になる。

館長 普段から収蔵庫管理が十分に行き届いているわけではない。工事期間には展示替えにも着手しなければならないので、資料は一点ずつ台帳と照合・確認しながら、選別・整理を進めていく。

議題（３）その他

◆事務連絡等

令和 6 年度第 1 回の協議会は数人の委員が入れ替わるため、日程未定。

閉会后、春期特別展「ひらつかの古道を行く」を担当学芸員の案内で見学した。